



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>



下関市子ども市議会終了後の記念撮影  
(8月24日市議会本会議場)

# 10年後、20年後のまちづくり 平成27年度下関市子ども市議会が 開催されました

こ  
んにちは。市長の中尾友昭です。8月24日に「下関市子ども市議会」が市議会本会議場で開催されました。目的は、小学6年生が模擬の市議会を体験することで子どもたちに議会の働きや市政の仕組みなどを理解してもらおうことと、市民への議会活動のPRです。さらに、未来の担い手となる子どもたちが、10年後・20年後のまちづくりについて考え、意見を出し合うことで、市政に対する関心を高めることを目的としています。

市内51の小学校のうち、34校から35人の6年生が、波佐間教育長から子ども市議会議員の委嘱を受けました。事前に10の会派をつくらせて学習会を行い、質問原稿を作成して、当日に臨みました。質問は、観光地・宿泊施設の整備や、観光客を増やす工夫に関するもの、ごみの不法投棄を減らす対策に関するもの、子どもから高齢者までが、楽しく、安心して暮らせるまちづくりに関するものなど、多岐にわたっていました。私は、二つの質問に答えました。一つ目は、「津波災害時の避難計画について」です。津波災害時の自分

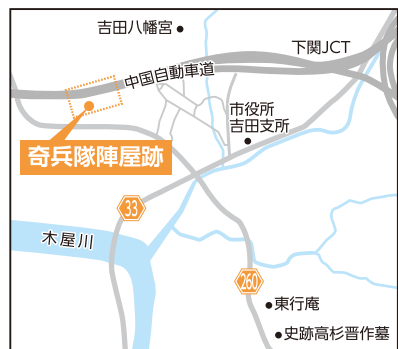
が住んでいる地域のお年寄りの身を案じた質問でした。地域での人のつながりが希薄になっていると言われていた昨今、この質問をしてくれた小学生の優しさに心が温かくなりました。二つ目は、「下関のまちの活性化について」です。下関駅から唐戸までの空き地などの観光地化に関するものでした。下関らしいカフェやふくの置物を作る体験施設など具体例も示され「ふるさと下関」を愛する心が確実に育っていることを実感しました。質問後は、「下関市子ども宣言」の議決でした。友だちと仲良くすることや「ふるさと下関」のことを学習すること、自分の「いのち」を大切にすることなどの宣言が、子ども議員全員賛成で可決されました。未来を担う子どもとして取り組むべき事が盛り込まれた、素晴らしい宣言でした。

こども市議会の中で「未来の子どもたちへのプレゼントになると思います」というすてきな言葉にも出会いました。将来の下関市を思い描いている子どもたちに頼もしさを感じると共に、市長として大きな元氣、パワーをいただきました。

## しものせきナビ vol.60

幕末維新紀行

奇兵隊陣屋跡  
下関市大字吉田字諏訪  
1345番ほか地内



下関市域東端の吉田地区には、多くの幕末遺産が残されています。奇兵隊創設者高杉晋作の墓所がある東行庵の北西約1キロの高台に立地する「奇兵隊陣屋跡」もその一つです。陣屋は、奇兵隊が吉田を本拠地とするため設置した本陣施設で、小倉口での幕長戦より帰陣後、慶応3(1867)年4月から築造を開始し、8月に完成しました。その後、明治2(1869)年11月下旬の諸隊解散まで、奇兵隊はここで銃陣や操練などの軍事訓練や文芸稽古などに励みました。



奇兵隊陣屋跡土塁

大正末年(1926)刊行の『厚狭郡史』所収の「奇兵隊陣屋図」によれば、陣屋内には1番から5番までの兵舎や未熟な隊士の兵舎のほか、講堂、稽古場、学科棟など、隊士養成のための教育施設をはじめ、風呂、物置などの日常生活に欠かせない施設も配っています。陣屋の一部は、高速道路建設に伴い、失われていますが、その際の発掘調査において、奇兵隊の頭文字「奇」銘のある、特注磁器碗が多数出土しました。この碗は、40人ともいわれる隊士の日常生活に使われた遺品です。現在の陣屋跡に残る土塁や、りりしく天を仰ぐ隊士頭影像とともに、往時の陣屋のたたずまいを今に伝えています。